

▲ 興福寺中金堂出土鎮壇具の発見 —金色に輝く遺宝—

昨年1月から9月まで続いた興福寺中金堂の調査で、奈良時代初めの創建時の須弥壇築成にともなう鎮壇具の数々が出土しました。興福寺中金堂鎮壇具は、明治の初年に大量に発見され、国宝に指定されています。今回の調査では、明治期に積み直された須弥壇の下層から、明治時代の初めに掘り荒らされた土に紛れ込んだものと思われる^{のべがね}金延金や砂金、水晶玉、^{こはく}琥珀玉、瑠璃玉、和同開珎、真珠玉などがみつかっています。1月30日に興福寺で記者発表をおこないましたが、翌日の朝刊では、多くの新聞が一面にカラー写真を掲載する扱いでした。

(平城宮跡発掘調査部)



2002年1月31日産経新聞朝刊紙面から